

平成28年度第2回小美玉市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年11月16日（水）午後2時～午後3時40分
- 2 場 所 小美玉市役所小川総合支所 3階 大会議室
- 3 出席者 (市長及び教育委員会)
島田市長，加瀬教育長，山口職務代理者，中村教育委員，澤畠教育委員，
鶴町教育委員，柴田教育委員
- (事務局)
市長公室長，教育部長，指導室長，政策調整課長，学校教育課長
学校教育課課長補佐，政策調整課主幹
- 4 会議次第 ○あいさつ ・市長あいさつ
・教育長あいさつ
- 協議事項 ・市立幼稚園の今後のあり方について
・小中学校プール授業の今後のあり方について
- 5 傍聴者 0名
- 6 内 容

○司会（政策調整課長：以降の表記は「司会」）

皆さんこんにちは。ただいまから第2回小美玉市総合教育会議を開会いたします。それでははじめに島田市長よりご挨拶申し上げます。

○市長

皆さんこんにちは。教育委員の皆さんには、日頃より、子どもたちの教育の充実・発展、健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、今年度2回目の会議となりますが、本日の会議では「市立幼稚園の今後のあり方」と「小中学校プール授業の今後のあり方」についてご協議いただきたいと思います。どちらも少子化が進む中で、将来的にどのように教育環境を整えていくかという議題であります。

教育環境は、人口減少対策と定住促進に直結する重要な要素ですので、子どもたちが安心安全で、楽しく幸せに過ごせるよう、委員の皆さんとの意見交換を有意義なものとして、より良い教育環境を整えてまいりたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

○司会

続きまして、加瀬教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長

こんにちは。大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題であります市立幼稚園とプール授業につきましては、先を見通して対応していかなければならない課題でございます。

喫緊の課題としましては、問題を抱えた親が非常に多くなってきています。合わせて問題を抱えた子どももまた多くなってきています。学校はすぐに対応しなくてはなりません。学校側から言うことが通じない保護者がたくさん出てきています。そういった中で、全職員で対応している状況です。子どもたちのため、鋭意努力を続けてまいります。今後ともよろしく願いいたします。

○司会

ありがとうございました。それでは、議事進行につきましては島田市長にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

○市長

はい。それでは、皆様のご協力を頂きながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、協議事項の①「市立幼稚園の今後のあり方」につきまして、事前に皆さんのお手元に資料が配布されており、内容につきましては既にご承知かと思っておりますが、確認の意味で、概要について事務局に説明を求めます。

○学校教育課長補佐

市立幼稚園の今後のあり方について、学校教育課から説明させていただきます。今回の協議題の提案理由でございますが、一番大きな理由としましては、園児数の減少でございます。

小美玉市では、合併以来、人口が減少し続けております。その中でも、保育園・幼稚園に入園する0歳から4歳は、人口そのものも減少していますが、総人口に対する割合が減少しており、合併時には総人口に対する割合は4.6%でしたが、平成28年は3.9%となっております。

市の人口が減少するなか、保護者、特に母親の働き方も変わってきておりますので、幼稚園よりも保育園を選び、低年齢から入園させる保護者が増加しているという現実と、小美玉市立幼稚園の現在の園児数、また私立幼稚園の園児数などを比較したとき、今後の小美玉市立の幼稚園はどうあるべきか、10年先、15年先を見据え、公立幼稚園の今後のあり方、方向性を、総合教育会議でご協議いただきたく、ご提案させていただきました。

市全体で見た時に、平成28年度の1歳児、2歳児の人口は300人台にまで落ち込んでいます。0歳児がまた400人台になっていきますので、1、2歳児の減少が一時的なものかは今後数年を見ていかないとわかりませんが、確実に300人台に向かっていると思われれます。

国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」より、小美玉市の推計を抜粋したものによりますと、0歳～4歳の人口の推計と総人口の推計になっていまして、24年先の平成52年には総人口は41,468人、0～4歳は1,444人という推計が出ています。

小美玉市立幼稚園の園児数の合併時からの推移ですが、園ごとに、保育年数や預かり保育の有無など、保育形態に違いはありますが、園児数が減少しているという現状は、どの幼稚園も一緒だと言えます。特に、美野里地区の幼稚園では、これ以上園児数が減少すると学級運営が成り立たなくなってしまう園が出て来る可能性もあります。

市内の私立幼稚園と保育園の園児数(市外からの入園児も含む)の推移につきましては、ルンビニー幼稚園は、平成18年に比べると60人近く園児数を減らしていますが、美野里幼稚園は20人ほどの減に留まっています。

保育園においては、平成25、26年から園児数が減少しているようにも見えますが、今年度の保育園別の園児数としては、ほぼ定員を超えて入園しております。推測ですが、人口の減少による3歳から5歳の入園児の減少分を、0歳児から2歳児が補っているのではないかと思います。今後、日本全体の人口の減少が進むなか、子どもの数が増えていくことはまず考えらず、保育園でも将来的には定員割れになっていくのではないかと考えられます。

これらのことから、小美玉市立の幼稚園、理想としてはもちろん3地区同じ環境での幼児教育が理想ですが、人口の減少・施設・予算・女性の働き方など様々な観点から、今後のあり方、方向性をご協議いただければと考えております。

○市長

ただいま事務局より説明がございました。それぞれご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

●山口委員

美野里地区の4つの市立幼稚園の人数を合わせて元気っ子幼稚園とほぼ同じ人数ですね。小川地区も玉里地区もそれぞれ1つずつですから、簡単に言えば美野里地区も1つにすればいいんじゃないかな、と思います。また、玉里でやってる3歳児受け入れもやってみたらいいのではないかと思います。

○市長

3地区を同じ教育環境で整えていくのが理想だという話もありましたが、そのあたりも皆さんのご意見を伺いたいと思います。実は、我々も議論してきたところですが、小中学校規模配置適正化を優先させるべきということで、幼稚園はひとまず耐震補強のみ実施したところ。おかげさまで小中学校規模配置適正化が順調に進んでおりますので、今のうちから、こうした問題を考えていかなければと考えております。

●中村委員

幼稚園別に定員に対する現在の充足率は、元気っ子幼稚園42%、玉里幼稚園34%、竹原幼稚園20%、羽鳥幼稚園44%、堅倉幼稚園34%、納場幼稚園31%という状況ですから、大きく違っているということではないと思うんですね。全体的に定員に対する充足率が半分以下だと。それが市立幼稚園全体の問題だと思います。幼稚園そのもののあり方を考える必要があるのではないかと思います。

●澤島委員

小美玉市は小中一貫教育を推進しているわけですが、それぞれの地区の形態を生かした3つのあり方で進めていますよね。幼稚園も地域の特性があると思います。それと公立幼稚園だからできる強みは何かと言うと、幼稚園教育要領の改訂の大きな柱の1つである「幼小の円滑な接続」です。美野里地区は小学校のすぐそばに公立幼稚園がありますので、交流したり学びあったりしやすい環境にあります。

ただ、大きな問題は、集団の学びを確保するだけの人数がいなければならないということです。そこをどうするか考えて、改善の余地があるならば改善していくことを考えてはどうかと思います。

小中一貫教育の特性を、幼稚園にも広げられないかと考えます。それができれば、小美玉市の特長になるのではないかと思います。

○市長

昔は小学校の校長先生が市立幼稚園の園長でした。今のお話しではその体制が理想だということだと思いますが。

○教育長

美野里地区は今でも小学校の校長が市立幼稚園の園長を兼務しています。

竹原幼稚園を工事しているとき、一時的に幼稚園が小学校に移動していました。まさに、幼稚園と小学校が一体になった事例です。この時に、普段は面倒を見てもらう側の小学1年生が、幼稚園児の面倒をよく見て活躍した、ということがありました。幼小というのは非常に大事だということです。

●中村委員

幼稚園に通う絶対数は変わらないわけですから、公立と私立で、どちらかが園児数が増えるとどちらかの園児数が減りますよね。そうすると、公立と私立の違いは何なのか、私立は維持できていて公立は定員の半分にも満たない理由は何なのか、そこを究明しないと公立が増えるのは難しいと思います。特に、元気っ子幼稚園と玉里幼稚園はそれが強いと思います。美野里地区は小学校と一体型という特長を出せますからね。

●澤島委員

どこの幼稚園を選択するかは保護者の自由ですから、それはそれでいいとして、公立の役割として、公立だからこそできることを提供した上で保護者がどこにするかを選択する、という体系は作らなければいけないと思います。人数のことを考えると縮小統合という流れに行きやすいですが、一番大事なことは子どもたちにとってより効果的な教育環境を整えることだと思います。そこが気にかかります。

●中村委員

親がなぜその幼稚園を選ぶのか、ニーズは何なのかということをはっきりさせて、それが公立幼稚園にあるのかどうかということだと思います。それを解決しないと、市立幼稚園の園児が増えることには繋がらないと思います。

○市長

預かり保育の実施に関してもそれぞれ違いがありますよね。

○学校教育課長

預かり保育をやっているのは、元気っ子幼稚園と玉里幼稚園です。美野里地区の市立幼稚園はやっていません。

○教育長

元気っ子幼稚園を開園して2年目に、園児が少ないので、職員が何とかしようと考え、朝と夕方の預かり保育を始めました。相当需要があると思っていたところ、実際には7～8人、1割程度という実績でした。

公立か私立かを選ぶ基準は2つあると思います。

1つは、親が家にいて、放課後面倒を見られる状態の方は公立を選び、そうでない方は私立を選びます。

もう1つは、私立の魅力ある行事等に惹かれるかどうかです。ここは、公立はちょっと弱いところです。

●中村委員

先ほど竹原小学校と幼稚園の交流の例がありましたが、公立であることの良さである幼小の連携を一層密にして、魅力を高めるということは考えられると思います。

○市長

幼稚園と小学校の運動会を別にやっているのは何か理由があるのでしょうか。昔は一緒にやっていたよね。

●澤島委員

小学校と一緒にしてしまうと、出られる種目が限られてしまいます。保護者も子どももたくさん出たいですからね。

公立の良さを出し、選択してもらえればと思います。できることは、幼小連携。中1ギャップのようなものが小1でもあるわけですから。

○教育長

公立の強みは幼小連携なので、今やっているのが学校訪問です。自分が進学する小学校へ月2回程度行って校庭で2時間ぐらい遊べます。こういうところで保護者にアピールしていくことが必要かなと思います。

●澤島委員

そうしたカリキュラムをしっかりと作っているところもありますよね。年1回ぐらいの交流ではなくて、短い時間でしたら何度も可能ですよね。そうすると自然にお兄さんお姉さんを知り、繋がっていくことができます。

●中村委員

ちょうど今、統廃合を進めていて、小中一貫が統廃合の目玉となるわけですが、そこに幼稚園も含めて、幼小中一貫にするなど、プログラムに幼稚園も組み込んではどうか。かなり特長になるのではないかな。

●柴田委員

先日、牛久市の幼保小の連携について研修に行きましたが、それぞれの地区にある市立幼稚園が音頭をとって幼保小の連携を計画したと聞きました。小学校に直結していくのは、市立幼稚園なのかなと思います。

●鶴町委員

なぜ美野里地区は4つの幼稚園の体制にしているかと言えば、小学校がすぐそばにあって相談しやすいということもあると思います。ただ、人数的に7人。2クラスで14人の面倒を見るのに専門の職員が張りついて見ているという状況は、費用対効果の面からも考えないといけないと思います。教頭と担任、臨時職員しかいない状況で、特に堅倉幼稚園の先生から伺った話では、小学校と離れた森に囲まれたところで、冬は夕方でも真っ暗な中で、園児が帰った後に1人で留守番しているのは心配だと言われました。その話を聞いて、美野里地区も1つの幼稚園にしてはどうかと思いました。

ただ、保護者も魅力ある民間に預ける傾向にありますので、保護者や地域の人たちの意見を聴取しながら進めなければならないと思います。

○市長

幸いにして、耐震補強をして安全な状態になっているので、対象者の意見を聴く時間もあります。メリット・デメリットを整理し、デメリットをいかにメリットにしていくかを考えていくことも大事ではないかと思っています。

●鶴町委員

小川地区で公立幼稚園を統合して元気っ子幼稚園を造ろうと決めた際には、どういう思いだったのでしょうか。

○教育長

小川地区の公立幼稚園は施設が老朽化して酷い状態だったので、町村合併前に既に地域や保護者の皆さんとは「統合する」という意思疎通ができていました。ただ、場所はどこにするかは決まっていませんでした。

○市長

合併後、公立幼稚園を統合することで小川町議会で議決されているという引継ぎを受けましたので、小川地区の議員に集まっただき議論しました。3年保育については検討の余地があるものの、統合は決定とのことでしたので、議決を重んじて進めることにしま

した。場所については意見がいろいろあったものの、小川地区の議員みんなで議論して今の場所に決まったという経緯です。

●鶴町委員

美野里地区と同じように、小川地区の幼稚園は各小学校の隣にあったんですよね。

○教育長

はい、そうです。

○市長

だから昔は運動会を一緒にやっていたんでしょう。

●鶴町委員

玉里地区では小学校の隣に公立幼稚園、という状況はありませんでした。最初は役場の隣にありました。

○市長

統合して元気っ子幼稚園になってから、どうなのでしょう。

○教育長

素晴らしい施設ですから、子どもを入園させた保護者からは「なぜみんなこの幼稚園に入れないんだろう」という声があるほど満足いただいていると思います。

●山口委員

ただこの元気っ子幼稚園は、当初の定員220人に対して50%を超えたことが1～2回という状況です。

○教育長

はい。人口が減っている割に安定していると捉えています。また、今後もし3歳児から入園可とした場合にも対応できるような施設になっていると聞いています。

●中村委員

元気っ子幼稚園の場合、3歳児まで預かる必要性が生じているのではないのでしょうか。玉里幼稚園もやっているわけですから。いろいろあったとは言っても、一般の人たちは関係ないですから「なぜ元気っ子幼稚園は3歳児から入園できないのか」という意識の人もいると思いますが。

○教育長

小川町時代の公立幼稚園は1年保育でしたからね。

●鶴町委員

当時の玉里幼稚園には小川から随分来ていましたよね。

玉里村は幼児教育審議会でも3年保育について協議して決めました。玉里村が3年保育について構想を持っていましたが、なかなか決まらなかったんですね。当時の教育長が信念を持って取り組んでいたのでできたと思います。

●山口委員

きっと地ならしは教育長が一生懸命やっていたんだと思います。あれは大きな転機でしたが、それ以降はあまり騒いだりしませんでした。

●鶴町委員

定員の問題ですが、定員を定めているということは、それだけの人数を受け入れられるということですね。とはいえ、1クラス30人以上入園させてしまったら、幼稚園の運営が成り立たないのではないかと、15～20人が妥当なのではないかと。そうすると教室の数とは合わなくなります。

○学校教育課長補佐

幼稚園の1クラスあたりの人数上限が35人となっているので、そこからクラス数を掛けて定員を出しているのではないかと推測します。

●鶴町委員

幼稚園1クラス35人というのは現実的ではない数字だと思いますが、いかがでしょう。

○教育長

実態としては不可能だと考えます。

●鶴町委員

定員に届いていないが、実態としては適正な人数なのかもしれない。

●中村委員

社会は少子化であり、女性活躍推進と言っていますので、子どもを長時間預かってもらいたいというのが一番のニーズです。幼稚園の存在は、そういうニーズを果たす方向で考えていかなければなりません。小美玉として特長ある幼稚園を打ち出すには、例えば幼・小・中一貫を進め、他自治体との差別化を徹底する。そういうことが、働く女性にとって住みよいまちというイメージにも繋がってくるのではないかと思います。2年保育を3年保育にするとか、預かり保育をやるとか、やるべきことをやらないと、私立と公立のあり方が変わらないと思います。

○市長

美野里地区の公立幼稚園の保護者から「なぜ預かり保育をやらないのか」という話が出ていませんか？

○教育長

そういう声があるとは聞いていません。

○学校教育課長

入園の問い合わせでは聞かれることはありますが、「やっていない」と答えると私立へ行くようですので、どうしても公立幼稚園でやってほしいという声は無いようです。

●澤島委員

子どもが2人いると、上の子の時は下の子が小さいのでお母さんが家にいるからいいとして、上の子が年長になって下の子を年少に入れるときには仕事をしたいので、公立に入れたくても入れられないという話を聞きますね。

○市長

保護者の皆さんから意見を聞く機会をつくるなど調整を図りながら、より良いよう教育について今後も引き続き検討を進めていきたいと思います。

○市長

次に、協議事項の②「小中学校プール授業の今後のあり方」につきまして、事務局に説明を求めます。

○施設整備課長

現在小美玉市では、12小学校中5校が自校プールを使用し、7校が小川・玉里B&Gのプールを使用して授業を行っています。中学校については4校中2校がB&Gプールを授業で利用しています。

学習指導要領によれば、水泳教育にかける時間は明確な基準は定められていませんが、2年間で20時間のモデル教育プランが文部科学省から示されていますので、それを参考に組み立てているのが実態のようです。

プールの稼働期間は6月から9月まで。夏休みを除けば実質1ヶ月半程度の僅かな期間のために、水道代や水質検査、老朽化した施設の維持など費用もかさみます。

学校統廃合を進めているところですので、費用対効果の点からも1学校に1プールが必要なのかどうか再考いただき、今後の学校統廃合におけるプール施設整備のあり方について方向性を示していただければと考えております。

資料には、小美玉市と近隣市町村の状況を掲載しておりますので、ご参照ください。特に石岡市では、学校統廃合を機に市全体として今後プールを集約していく方針であると議会に説明しております。

○市長

プール清掃は学校の先生がやっているんですね？

●澤島委員

はい、子どもたちと一緒に先生方がやっています。

●鶴町委員

玉里中学校は割と早めにプールを閉鎖しました。老朽化していたことと、グラウンドが狭くてテニスコートが野球場とせめぎあって危なかったのも、プールを壊してテニスコートにし、プール授業はB&Gを使うようになりました。

○市長

施設としてはB&Gの方がはるかに良いですよ。外気も入らないし衛生的です。また、B&G側から言えば、利用率によってランク付けがあり、補助対象になったりするので、常に利用率を高めたいと思っています。

また、子どもたちはバスに乗ってB&Gまで出かけていくのが嬉しそうです。そういう側面もありますね。

●澤島委員

プール授業の10時間は何回程度の利用で消化しているんでしょうか。B&Gへ行くと学校では余分な時間を使ってしまって困る、というようなことはないのでしょうか。

○指導室長

B&Gに行くと2時間やってきます。バスでの往復時間を考えると若干授業時間のロスがありますが、自校でプールを維持管理するという労力のことと、屋内なので天候に左右されず計画的に授業ができることを考えると、B&Gを使わせていただいた方が非常に良いと考えます。

●澤島委員

双方にとって良いことなのであれば、B&Gの利用を促していくのがよろしいかと思えます。わずかなプール授業数の割に自校管理は確かに大変なんです。

○教育長

1回2時間ですので、10時間を5回行けば消化できます。学校で2ヶ月もプール開放するよりははるかに効率的です。以前はプールを地域に開放していましたが、子ども会ではプールでの事故があった場合の責任を持ってないということから、いまは地域での利用がほとんどありません。

●柴田委員

羽鳥小は、今年ノロウイルス感染によって自校プールは使用せずに小川B&Gプールを利用しました。羽鳥小から小川B&Gまでとても距離があって、2時間のプール授業を行うために前後1時間ずつ使うこととなり、往復の時間も授業数としてカウントできるので、2回行けばほぼ授業時間数は終わるのですが、果たしてそれで水泳の指導になったのかどうか、という疑問が残りました。羽鳥小は人数が多いので、バス手配もネックになりました。

○教育長

今年は突発的なノロウイルスによって対策を講じたので、計画的に手配できなかったのは事実です。

●柴田委員

羽鳥小はまだ自校プールの地域利用を半分以上の地域が行っていますが、確かに安全管理面で保護者が見ているというのでいいかどうか、という不安な面はあります。近くで使えるプールがあれば使いたいという意見もありますし、無くてもいいという意見も両方あるのが現状です。

○市長

小川でも玉里でも確かに距離がありますね。改善センターのプールでは小さいのでしょう。羽鳥小のプールはせっかく残したので、地域の人たちが使ってくれているというのは嬉しいです。

●中村委員

納場小、羽鳥小はプールが老朽化していますよね。40年以上経っています。そのうち壊れたりしてメンテナンスの費用を考えれば、順次閉鎖して、外部のプールを使用することを前提としていくのがいいのではないのでしょうか。

○市長

実際、校舎立替時に、堅倉小、竹原小もプールを撤去しています。これから統廃合のことと羽鳥小のこともあったので、今回議論いただいたという次第です。

●鶴町委員

そもそも、年間10時間の授業時間数で泳げるようになるのでしょうか。

○指導室長

小学校では卒業までに25m泳げるようにすることが目標で、自校プールがある時代には夏休みに泳げない子を集めて指導していました。バスで外部プールを利用する状況でも同様の成果を出せるかという、なかなか厳しいとは思いますが、それなりの成果は出せると思います。

●山口委員

B & Gのプールはそれぞれ何年ぐらい経っているんでしょうか？

○施設整備課長

小川が平成3年5月，玉里が昭和59年5月竣工です。

●山口委員

B & Gを代替施設とするならば，重点的にしっかり維持管理いただきたい。

○市長

幼稚園もプールを使用していますか？

○教育長

幼児用プールがあれば使用しています。

また，小川B & Gプールは使用期間が長いので授業を組む意味で非常に助かります。小中学校の利用を最優先して入れていますので。

○市長

様々な議論をいただきましてありがとうございました。こちらの課題も，校長先生をはじめ，保護者の皆さんのご意見も踏まえながら検討しなければいけないことですが，自校プールから段階的に外部プールの活用へと考えていきたいと思えます。その前提としては，B & Gプールや改善センタープールをしっかり維持管理してまいります。

まとめ（市長）

- ・貴重な意見をたくさんいただき，ありがとうございました。
- ・子どもたちの教育環境の充実という点では，ただいま小中学校の統廃合を進めておりますが，市民の皆さん，保護者の皆さんのご意見もしっかり伺いながら，教育委員の皆さんとも様々な議論を深めてまいりたいと考えております。

○司会

長時間に渡り活発な意見交換をいただきまして誠にありがとうございました。

以上をもちまして第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでした。